

生活衛生関係営業のみなさんへ

みんなのできる SARS対策



日常業務の中で
すぐにできること

SARSの正しい知識

正しい清掃・消毒方法

SARS流行期の対応

感染者が出た場合の対応

新型肺炎SARSを知っていますか？

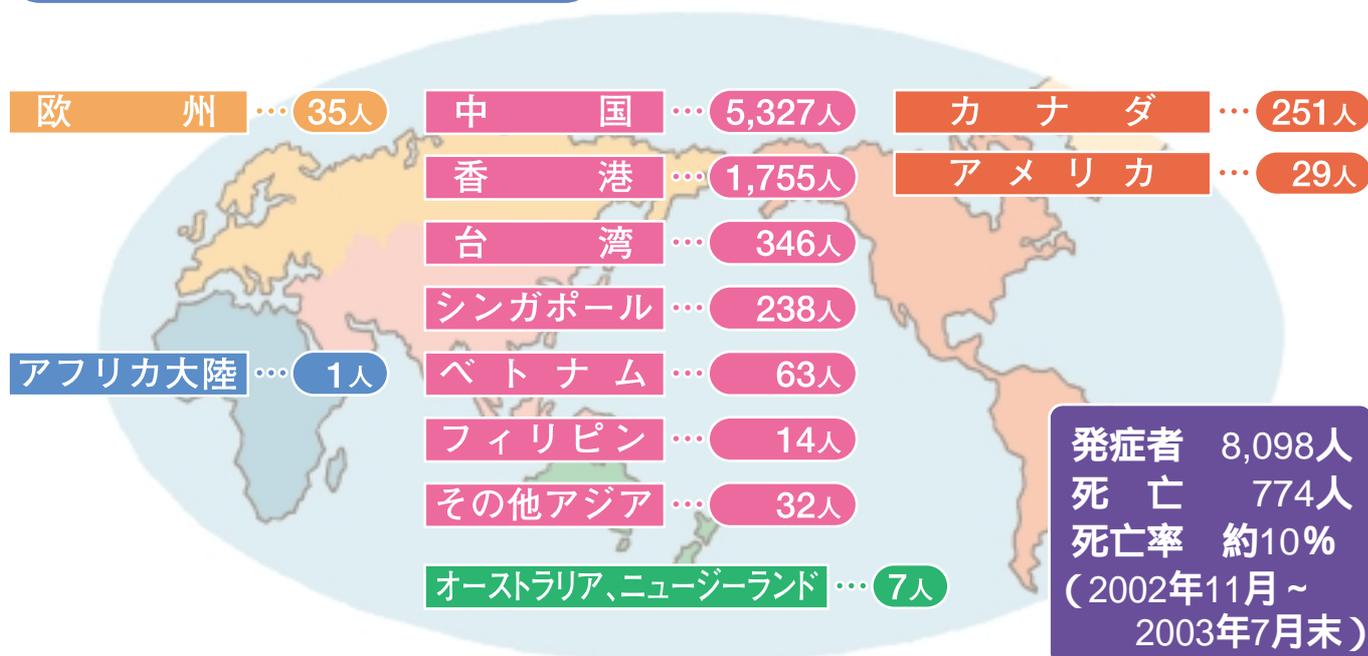
2003年春、SARS (Severe Acute Respiratory Syndrome = 重症急性呼吸器症候群) という新型の肺炎がアジアを中心に世界各地で流行し、多数の死者が出て大問題になりました。日本でも、観光に訪れた外国人旅行客の一人がSARSに感染していたことが明らかになり、大きな波紋を広げました。

その後、幸いにしてSARSの流行はおさまりましたが、いつまた再流行するかもしれません。そのような場合でも、お客様と従業員のみなさんの安全を確保するために、また感染の拡大を防止するために、今から対策を立てておきましょう。

SARS対策のポイント

- ① SARSについての正しい知識をもつ
- ② 日常業務の中ですぐにできることを実行する
- ③ 正しい清掃・消毒方法を守る
- ④ SARS流行期の対応を決めておく
- ⑤ SARS感染者が出た場合の対応を決めておく

SARS感染の広がり



SARSについての正しい知識をもちましょう

SARSとは…

SARSコロナウイルスという新種のウイルスに感染することによって引き起こされる急性の呼吸器疾患です。

発病時の症状は…

発熱、倦怠感（だるさ）、筋肉痛、頭痛、悪寒など。38 前後の急な発熱を訴える場合が多いのですが、いずれもインフルエンザの症状とよく似ているので、医療機関で診断してもらう必要があります。

症状の経過は…

発病して1週間ほどで、せき、呼吸困難、下痢が多く見られるようになります。とくに重症の場合は集中治療が必要になります。

潜伏期間は…

感染してから発病するまで通常2～10日、平均5日です。

感染経路は…

感染は、発病後2週目に多く起こります。この期間中に発病者の介護や看護をしたり、2メートル以内で会話したりといった濃厚な接触があった場合に、感染の可能性があります。ただし、空気感染の可能性はきわめて低いと考えられます。また、潜伏期間中に他の人に感染させたという例は、今のところ報告されていません。

治療方法は…

治療法が確立していないので、全身管理や呼吸管理などが治療の中心になります。死亡率は10%前後です。

SARSの感染拡大予防策

現在実行できる感染拡大防止策は、感染者の入院と、接触者に対して経過観察または行動制限をすることです。

SARSウイルスに有効なワクチンは今のところ開発されていないので、予防接種はできません。



日常業務の中で すぐにできることを実行しましょう

営業者がすべきこと

事業所ごとにSARS対策の責任者を決めておきましょう。
緊急時に備えて、関係行政機関、対応医療機関、都道府県の定めた行動計画などの情報を集めて、みんなが分かるようにしておきましょう。



責任者がすべきこと

従業員の健康管理を徹底しましょう。
従業員や出入り業者の緊急連絡先を把握し、「連絡網」を整備しておきましょう。
従業員に対し、SARSおよび消毒に関する正しい知識を周知しましょう。

従業員がすべきこと

就業の前後、配膳サービスの前、清掃作業の後などの手洗い・うがいを徹底しましょう。
帰宅時の手洗い・うがいを徹底しましょう。
制服などは常に清潔に保ちましょう。
せき・発熱・体調不良などの自覚症状がある場合は、早めにお医者さんに診てもらいましょう。



お客様にご協力いただくこと

宿泊施設では、宿泊者名簿に正確な記載をしていただくよう協力を求めましょう。
体調不良のお客様には、その原因に関係なく、ヘルスクラブ、ジムなどにある共用のシャワー、サウナ、ジャグジー、スパなどの利用を控えていただきましょう。
体調不良のお客様を見かけたら、積極的に医療機関への受診を勧めましょう。



正しい清掃・消毒方法を守りましょう

SARSウイルスは、いつどこで発見されるかわかりません。そこで、SARSが流行していなくても油断せず、日頃から正しい清掃・消毒方法を実行することが、感染と感染拡大の防止につながります。「SARSウイルスに対する消毒方法(例)」を参照して、施設内の清掃・消毒方法を見直してみましよう。

作業上の注意

清掃・消毒の際は、必ずマスク・ゴム手袋などで防御し、作業後は十分な手洗いとうがいを励行する。

SARSコロナウイルスに対する消毒方法(例)

使用消毒液	対象物の例	使用上の留意事項等
【界面活性剤】 中性洗剤の濃度として0.5%以上		
台所用合成洗剤の希釈液 (ぬるま湯1リットルに台所用合成洗剤5~10ccを加えたもの)	便器の内側	希釈液を用いてトイレ用清掃ブラシで周囲に飛び散らないよう清掃し、フタをして5分以上経過してから、フタをしたままフラッシュする。
	トイレ清掃ブラシ	希釈液またはやや濃いめの希釈液に5分以上漬ける。
	患者が使用していた衣類やリネン類	希釈液に10分以上浸してから洗濯に出す。
	唾液、体液などで汚染されたもの	希釈液に浸したティッシュペーパーなどで汚染された所を覆い、5分経過してから拭き取る。
	食器、箸など	希釈液に5分以上浸した後、通常の洗浄を行う。
	居間、食堂、台所、浴槽等の用品その他のもの	希釈液に浸した雑巾で二度拭き取る。
【80 以上の熱湯】	色落ちしやすいもの(衣類、布団カバー等のリネン類など)や、熱湯消毒可能なもの	熱湯に10分以上浸してから洗濯または洗浄する。
【消毒用エタノール】 (70~80%濃度)	手指の消毒、メッキ部分	速乾性皮膚消毒剤が使用されることが多い。 脱脂効果のため皮膚があることがあるためスキンケアが必要である。 引火性があり取扱いに注意が必要であり、広範囲な噴霧には向いていない。

(注)「SARSに関する消毒(三訂版)」[国立感染症研究所感染症情報センター]を基に、分かりやすく整理したものです。

SARS流行期の 対応を決めておきましょう

責任者は...

発熱など体調異常を訴える従業員には受診を勧め、感染性の疾患であることが確認された場合は、保健所の指導にそって対処しましょう。

従業員やその家族がSARS流行地域（「伝播確認地域」）に行く場合は、中止または延期を勧めましょう。

従業員は...

毎日体温を計りましょう。熱が37.5 以上あるとき、せきが出るときは、お医者さんに診てもらいましょう。

混乱をさけるために注意すること

お客様が「伝播確認地域」から来たというだけで、利用を断ったり、予約を取り消したりしない。

SARSの初期症状はかぜやインフルエンザとよく似ているので、せきや発熱だけでSARSと決めつけない。とくにかぜやインフルエンザの多くなる冬場は冷静に対応する。

SARS感染者が利用していたことが判明したときは、保健所から連絡が来るので、それ以外のうわさ話や情報に惑わされない。

SARS感染者が出た場合の 対応を決めておきましょう

ケースA

お客様から「SARSに感染したかもしれない」と申し出があったら

責任者は本人の同意を得て、すぐに保健所に連絡し、指示を受ける。そのお客様を他の利用客と接触のない場所に待機させ、飛沫が飛び散らないようマスクをしていただく。誘導する従業員も必要に応じサージカルマスクやゴム手袋などで个人防护する。

医療機関への搬送は、保健所の指示に従って行く。そのお客様の近くにいたお客様にも、別の場所で待機していただく。そのお客様と接触した可能性のある従業員は、業務を中止して個室などで待機する。

他の従業員には、その時点での正確な情報を伝える。一般のお客様に事実を知らせるかどうか、移動の制限をするかどうかは、保健所と協議してから決める。

ケースB

保健所から「利用客の中にSARS感染者（または、SARSの疑いがある者）が見つかった」と連絡が入ったら

責任者は、そのお客様と接触した従業員に事実関係を伝える。また、家族にも連絡するように指示する。他の従業員、関係者にも「連絡網」で事実関係を伝える。

お客様と接触した従業員とその家族は、1日に2回体温測定をして37.5以上の発熱がある場合やせきなどの呼吸器症状が現れた場合は、すぐに責任者に連絡する。

責任者は従業員とその家族から上記の症状があるとの連絡を受けたら、直ちに保健所に連絡し、指示を受ける。

お客様の施設利用当日に保健所から連絡が入った場合は、責任者は、そのお客様が使用した部屋のエアコンを切り（給排気が同一系統のエアコンも切る）、窓を開け（建物が隣接しているときは避けてください。）、保健所の封鎖が解かれるまで従業員や利用客の立入を禁止する。

清掃・消毒の手順

保健所の指示に従い、おおむね次のように行います。作業の際は、必要に応じてサージカルマスクなどの感染防御可能なマスクやゴム手袋、ゴーグル、使い捨てガウン、エプロン、ゴム長靴などを着用します。

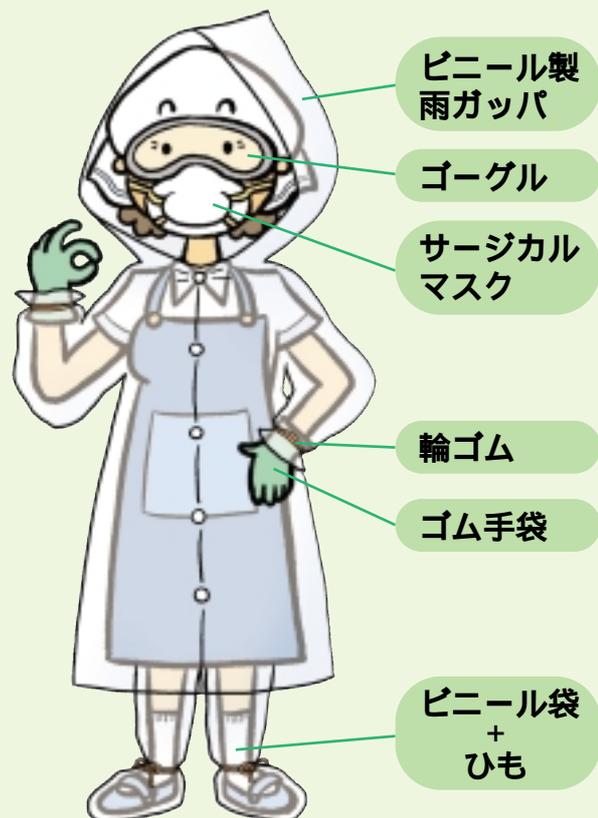
お客様が利用した部屋を清掃する場合は、エアコンを切り、窓を開けて（建物が隣接しているときは避けてください。）、保健所の封鎖が解かれるまで放置した後に行く。

お客様の手指が触れたり体液が付いた可能性のあるものを中心に消毒する。

使用していたシーツやタオル類はビニール袋に密閉し、他のものとは別に80以上の熱湯に10分以上浸すか、台所用合成洗剤の希釈液に10分以上浸してから洗濯するか、または80以上で熱水洗濯を行う。

吐瀉物などで汚れているシーツや使用後のマスクなどは、回収された部屋のゴミなどと一緒にビニール袋で密閉し、焼却または適正な方法で廃棄する。

作業終了後は、石けんによる手洗いや速乾性皮膚消毒剤（エタノールなど）による手指の消毒を行い、うがいをする。



イラストのように身近にあるものを使って防御することも可能です

関係機関連絡先

機 関 名	連 絡 先	
保健所 感染症担当課	担当者	昼間 tel. () 夜間 tel. ()
	担当者	昼間 tel. () 夜間 tel. ()
生衛業担当課	担当者	昼間 tel. () 夜間 tel. ()
	検疫所	昼間 tel. () 夜間 tel. ()

SARS対応可能な医療機関

医 療 機 関 名	所在地および連絡先
	所在地 昼間 tel. () 夜間 tel. ()
	所在地 昼間 tel. () 夜間 tel. ()
	所在地 昼間 tel. () 夜間 tel. ()

SARSに関する最新情報

海外渡航者のための感染症情報	厚生労働省検疫所ホームページ http://www.forth.go.jp
患者の発生状況 一般向けQ&A、など	厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1i.html
消毒・清掃方法 最新の医学的知見、など	国立感染症研究所ホームページ http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/update.html



平成15年11月

編集・発行 /

(財)全国生活衛生営業指導センター

〒105-0004 東京都港区新橋6-8-2

全国生衛会館2階

TEL 03(5777)0341

FAX 03(5777)0342